

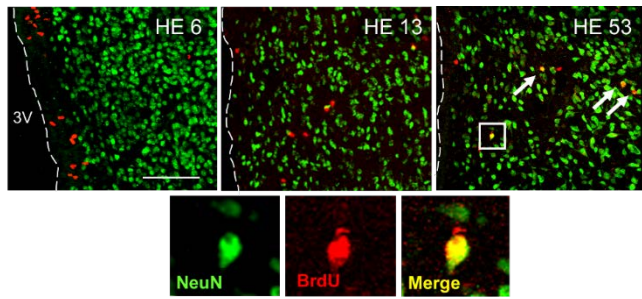
1、体温調節機能特に温度馴化の中枢機序の解明

2、自然素材を利用した認知症の予防・改善方法の開発

3、熱中症予防法の啓蒙

医学部 教授 紫藤 治

- 1、温度馴化に関する研究は数多くあり、その末梢メカニズムは良く知られるが、中枢メカニズムはほとんど知られていなかった。我々のグループは暑熱馴化の形成には体温調節中枢のある視床下部での神経新生が重要であることを世界に先駆けて報告した。現在もより詳細なメカニズムを検討している。さらに、これまでの知見を応用して、口腔乾燥症の治療法や口腔免疫などについても検討している。
- 2、DHA、エゴマ、お茶カテキン、数種類の薬草など様々な自然素材のヒトや動物の認知機能への有効性を検討している。得られた結果の一部として、DHA強化食品やエゴマ玉子の商品化への貢献、チョコレート摂取による健康成人の前頭葉機能改善の報告が挙げられる。また、地域の協力を得て、「認知症の予防・治療と食事栄養」に関するコホート研究を行っている。
- 3、日本生気象学会を介して全国レベルで熱中症予防法を提案している他、地域においては講演会などを開催し、熱中症の発症原因や予防について話題を提供している。



テオブロミンの前頭葉機能への効果

